

# 肺 壞 疽 ノ Squalin 療 法

(昭和 15 年 5 月 10 日受領)

鴻 上 慶 治 郎

## 緒 言

曩ニ著者ハ、重症肺結核患者ニ合併セル肺壞疽ヲ Squalin ニ依ツテ、治癒セシメ得タルコトヲ報告シタガ、其ノ當時ハ、果シテ Squalin ガ肺壞疽ニ對シテ確効ノ有ルモノカ否カニ就テ信念ヲ持ツテ批判ヲ下シ得ナカツタ。

爾來數ケ年ヲ經テ、最近偶然ニモ、活動性肺結核ナドヲ合併シナイ單純ノ肺壞疽患者 3 例ニ Squalin 療法ヲ試ミ是等ヲ治癒ノ状態ニ到ラシメタ。茲ニ其ノ臨牀實驗ノ大要ヲ述ベテ大方諸彦ノ參考ニ供スル。

## 肺壞疽ニ關スル文獻ノ概略

肺壞疽ノ病原體ハ、未ダ尙ホ適確ニハ認定サレテ居ラス。嫌氣性細菌體ニ因ルモノト看做サレルコトガ多イガ、其ノ病原體ハ、單一デハナクテ、恐ラク様々ナ種類ノモノニ據ツテモ惹キ起サレルモノダト推定サレテ居ル。

從來、肺壞疽ノ場合ニ、一種ノ「スピロヘータ」ガ屢々證明サレ且ツ Salvarsan 療法ガ奏效スル場合ノアルコトヨリ推測シテ、肺壞疽ノ病原體ヲ「スピロヘータ」ダト主張スル者モアルガ、Salvarsan ガ必ズシモ肺壞疽ニ奏效セズ、又一方肺壞疽患者ニ「スピロヘータ」ヲ證明出來ヌコトモ多イカラ「スピロヘータ」病因説モ、聊カ牽強附會ノ傾向ガ多分ニアル。プラフト氏ハ、肺壞疽ノ病因ハ、一種ノ「スピロヘータ」ト嫌氣性腐敗性細菌トノ共同繁殖(Symbiose)ニ基クモノト唱ヘラレタガ、恐ラク同氏ノ説ガ稍々眞ニ近イモノダト思フ。

次ニ肺壞疽ノ豫後ハ、從來頗ル悲觀視サレタモノデ、其ノ死亡率ハ、約 80%ト看做サレタ。其後、クインケ氏等ニヨツテ、肺壞疽ノ外科的手術ガ行ハレテ以來、外科的手術ノ可能ナ肺壞疽ハ、之ニ依ツテ、其ノ死亡率ヲ約 40—50%マデニ低減セシメ得タ。但シ肺臟ノ外科的手術ハ、

相當ニ危險ヲ伴ヒ、且ツ熟達ヲ要スルモノデアリ、其ノ上、外科的手術ノ適應サレル肺壞疽ハ、患者ノ榮養状態ガ佳良デ、病竈ガ局限性デ且ツ新鮮ナモノトセラレル。患者ハ著明ニ衰弱シテ居タリ、陳舊ナ病竈デアツタリ、或ハ廣汎性ノモノデアルト、外科的手術ヲ敢行シテモ、殆ド悉ク、不良ノ轉歸ヲ辿ルノガ一般デアル。

斯ルガ故ニ、肺壞疽ハ、今尙ホ外科的手術ニ一任シテ、其ノ豫後ヲ樂觀シテ可ナル疾患デハ決シテナイ。依然トシテ、其ノ豫後ノ不良サ加減ニ到ツテハ相當ナモノデアル。

慾ヲ云ヘバ、觀血のナーカハカノ外科的手術ニ依ラズ、内科的療法デ優秀ナ成績ヲ舉ゲ度イノガ山々デ、是ガ成功スレバ外科的手術ハ自然消退スル。近時、肺壞疽ニ對シテ、一般療法及對症療法ハ別トシテ、外科的療法、肺臟虛脫療法、理學的療法、病竈直達療法、化學療法、吸入療法等ガ行ハレ、其ノ結果、之ヲ外科的ニ治療スルモ、内科的ニ處置スルモ、其ノ死亡率ハ從前ニ比較シテ甚ダシク輕減サレタコトハ事實ダガ、未ダ尙ホ其ノ効果率 100%ニ近イト云ツタモノハ認メラレヌ。超短波療法ニセヨ、「リビオドール」氣管枝内注入療法ニセヨ、外科的療法

ニセヨ、Salvarsan 療法セヨ、實驗者ノ相異スルニ從ツテ、其ノ治病的效果率ニ於テ、相當著明ナ逕庭ガアル。或ル者ハ、殆ンド絶對ニ近イヤウナ效果率ヲ唱ヘルガ、之ニ對シテ或ル者ハ、ソレ程ニ期待ハカケラレヌト云ツタ按配デア。實驗者ニ依ツテ、斯ウシタ相異シタ結果ノ生ズル所以ハ、肺壞疽ハ蓋シ其ノ病因ニ於テ複雑ナル上ニ病狀モ亦輕重、種々雜多デアラカシク思フ。合併症ノナイ比較的新鮮ナ輕症肺壞疽患者ノミニ就テ觀察サレタ治癒率ト、重篤ナ合併症ノアルモノヤ、陳舊廣汎性ノモノヤ、敗血性多發性ノモノナドヲ主トシタ治癒率トノ間ニハ自ラ相異ノ生ズルコトハ當然デア。ソレ故ニ、其ノ病狀ヲ詳カニシナイデ、一概ニ治效ヲ云々スルハドウカト思フ。

治驗例 其ノ 1 ■某 男 47 歳、

診斷 右側廣汎性肺壞疽

#### 病歴要記

家系的ニ特筆ス可キ遺傳的乃至體質的素因ノ徵ス可キモノナシ。患者ハ、生來至極頑健ニテ著患ヲ知ラズ。

昭和 11 年 10 月右側濕性肋膜炎ニテ某病院ニ入院、治療數ヶ月デ治癒シタ。但シ、此ノ際、既ニ聊カ肺壞疽ノ合併ニ對シテ主治醫ニ疑問ヲ附セラレシコトアリト。爾來、健康上ニ大ナル支障ナカリシモ、越エテ昭和 12 年末頃ヨリ身心違和、倦怠感激シク、爲ニ軍籍ヲ退キ専ラ療養ニ努ムルコトトナツタ。昭和 13 年 2 月中旬劇シキ咳嗽發作ト共ニ腐敗性惡臭ヲ放ツ喀痰ヲ多量ニ出シ、同時ニ少量ノ喀血乃至血痰ヲ交ヘ、時々相當強烈ナ惡寒ノ襲來ト共ニ 39°C 前後ニ及ブ發熱ヲ來シタ。早速主治醫ヲ招聘シテ自宅療養ヲ行ツタ。此ノ間、主治醫ハ肺壞疽ニ對スル様々ナ内科的治療ヲ試ミタガ、一向ニ病勢ハ好轉セズ、次第ニ衰弱ノ程度ヲ増スノミテ豫後甚ダ憂慮ス可キ狀態ニ立チ到ツタ。茲ニ於テ、遂ニ意ヲ決シテ、同年 4 月 3 日東京市内某病院ニ入院加療スルコトトナツタ。同月 13 日マデ同病院デ種々ナ内科的治療ヲ受ケタガ、病態ハ

更ニ緩解セザルノミナラズ、却ツテ増惡ノ歩調ヲ辿ツタ。患者ハ、著者ノ幼少時代ノ知友ナルガ故ニ、更ニ轉ジテ著者ノ病院ヘ入院スルコトトナツタ。

#### 所見要記

##### 一般狀態

顔貌一見シテ重篤病者ノ相ガアル。羸瘦著明デ、皮膚汚穢蒼白色、稍々惡液質様ノ感ガアル。四肢末端厥冷、爪床及口唇ニ輕度ノ「チアノーゼ」ヲ認ム。脈搏及呼吸數共ニ多少促進、發熱ハ最高 39°C 前後ヲ去來スル不規則ナ弛張型ヲ示シ、劇烈ナ咳嗽頻發ス。自覺症ノ主ナルモノハ、右側胸痛、食慾不振、疲憊倦怠感、盜汗ナドデア。咳 痰

色調ハ黃綠乃至黃褐ヲ帶ビ、獨特ナ鼻ヲ刺スガ如キ紛々タル腐敗性惡臭ヲ放チ、其ノ 1 日量、約 300—400cc ニ及ビ時々血痰ヲ交ユ。之ヲ放置スレバ、特有ノ三層形成ヲ認ム。顯微鏡検査、結果、雙球菌、肺炎菌、葡萄狀球菌、連鎖狀球菌及其他ノ雜菌ヲ稍々多數ニ認ムルモ、結核菌、紡錘狀菌、「スピロヘータ」等ハ認メナイ。彈力纖維及肺組織片ト思ハル、モノヲ稀ニ檢出スル。

##### 胸部所見

右側前面肺尖ヨリ第 3 肋間腔ニ至ルマデ、稍々強度ノ鼓性濁音ヲ呈シ、著明ノ氣管枝性音、稀ニ捻髮音及有響性水泡音ヲ聽取シ抵抗感が強イ。後方上部ハ、輕度ノ短縮音ヲ認メル以外ニ著變ガナイ。右側下部ハ、前後面共ニ呼吸音多少粗糙デア。血液所見

##### 血液所見

肺壞疽ノ場合ハ、赤血球數及血色素量ハ共ニ減少シ、白血球ノ增多症ガ認メラレルト云ハレルガ、著者ハ、此ノ方面ノ檢索ハ行ハナカツタ。赤沈反應ハ、1 時間 125 耗デ、ワッセルマン氏反應陰性、結核補體結合反應弱陽性。

##### 尿及糞便所見

著變ガナイ。

「レントゲン」所見

●●●●●●●●

右側肺上野ヨリ中野ニ互ツテ濃厚、均等ナ陰影ヲ認メ、健常部トノ境界ハ稍々不鮮明ニ移行スル。其ノ濁濁竈ノ状態ハ、一見「クループ」性肺炎乃至大葉性滲出性肺結核ノ或ル種ノモノニ酷似スル。濁濁竈ノ下部、肺門部周圍ニ2,3小空洞ヲシキモノヲ認メ、肺門ヨリ横隔膜ニ向フ索狀陰影濃厚著明、左側肺門部陰影少シク増大シ、肺紋理稍々著明(寫眞参照)。

### 經 過

入院約1ヶ月半餘、此ノ間 Squalin ヲ隔日乃至3日目ニ、筋肉内或ハ靜脈内乃至氣管道ヨリ十數回試ミタ。食慾モ聊カ増進、榮養状態モ佳良トナリ、喀痰量及臭氣甚ダ減退シタ。患者ハ元來輕舉妄動スル性質デ、醫師ノ勸告ニ應ゼズ、未ダ治癒ニ及バザルニ、惶惶トシテ我儘勝手ニ退院シタ。其後放埒ナ自宅療養ヲ行フコト約1ヶ月餘デ相當大量ノ咯血ト共ニ惡寒發熱、以前ニモ増シタ重篤ナ状態ヲ呈シタ。患者及其ノ家族ハ一種ノ採ルニ足ラヌ迷信「主治醫ノ方角ガ惡イ」ノ下ニ著者ノ診療ヲ拒否シテ麴町區内某病院ニ依頼シテ其ノ診療ヲ乞フコトトナツタ。爾來、病狀ハ一弛、一張荏苒トシテ數ヶ月ヲ經タ。

食思益々振ハズ、榮養愈々衰耗、最早死生ノ分野ハ素人ノ餘所目ニモ明白トナツタ。斯クテハ「主治醫ノ方角」ナドハ問題デナク、再ビ昭和13年10月31日余ノ病院ニ入院シタ。爾來、同年12月30日マデ Squalin ヲ肺臟實質内ニ凡ソ5日目ノ間隔デ十數回注射シタ。經過頗ル良好デ、一般症狀大イニ輕快ニ向ツタ。處ガ、患者ハ例ノ輕舉妄動ノ習癖ヲ出シ、喉元過ギレバ熱サヲ忘レルノ諺ノ如ク、新春ヲ自宅デ迎ヘタシトノ愚ニモツカヌ慾望カラ、突如トシテ、院長ノ不在中ニ退院シタ。然シ乍ラ、幸ヒニモ、退院後モ經過次第ニ良ク、通療法デ Squalin ヲ7日—10日ノ間隔デ靜脈道カラ注射シタ。其ノ注射回数ハ合計56回ニ及ンデ現在ニ到ツテ居ル。尤モ此ノ間ニ、勝手ナ轉地療養ナドデ病狀ヲ多少惡化セシメタコトガ再三アル。過去數ヶ

月ヨリ現在ニ至ルマデ、自覺症狀殆ド消退、輕微ノ咳嗽、喀痰アルモ、惡臭其他特別ノ異狀ヲ認メヌ。食慾旺盛、體重著シク増加(約4貫匁)更ニ臥牀スルヤウナコトガナイ。

現在ニ於ケル「レントゲン」像ハ、上野ヨリ中野ニ互リ廣汎ナ濁濁竈ハ殆ド消失、唯少許ノ索狀乃至蜂窠狀陰影ヲ認ムルノ外ニ肺門ヨリ中隔竈ニ沿フテ上行スル帶狀比較的濃厚平等ナ濁濁ヲ遺留スルニ過ギナイ。

赤沈反應モ稍々限界値ニ近イ。胸部ノ所見モ亦殆ド大部正常トナリ僅カニ肺尖部ニ呼吸延長ヲ認ムル程度デアル。

以上ノ諸點ヲ綜合シテ、本患者ノ肺壞疽ノ發生ノ誘因乃至原因ニ就テハ確然セメガ、暴飲、大酒ノ癖ガ素因ヲナシ、恐ラク寒冒カラ氣管枝性ニ病患ヲ醸生スルニ至ツタモノト惟ハレルガ、何レニシテモ、相當長期間ニ及ンダ慢性陳舊ナモノデ、其ノ病竈部位モ亦決シテ狭小デナク重症ノ部類ニ屬スルモノガ、現在ノ状態デハ殆ド完全ニ近ク治癒シタ。

治驗例 其ノ2 ■■■ 某男 56歳。

診斷 右側上葉邊緣部肺壞疽。

### 病歴要記

家族歴ニハ特記スベキモノガナイ。46歳ニ「マラリア」病ニ罹患セル外ハ著患ヲ知ラズ。昭和14年3月中旬頃惡寒戰慄ト共ニ高熱ヲ發シタ。直チニ某醫ヲ招イテ其ノ診療ニ託シタ。同醫師ハ右側肺結核ト診斷シテ治療ヲ行ツタ。

然ルニ、發病以來既ニ百餘日ニ垂ントスルモ、病狀ハ一向ニ良好ノ經過ヲ示サザルノミナラズ、同年6月末頃ヨリ小咯血乃至血痰ヲ咯出スルニ至リ、同時ニ其ノ頃ヨリ著明ニ喀痰ニ腐敗性惡臭ヲ覺エタ。患者ハ驚愕ノ餘リ直チニ余ノ病院ニ入院スルコト、ナツタ。

### 所見要記

#### 一般狀態

皮膚汚穢蒼白、羸瘦著明、顴骨突隆、眼窩凹ミ顔貌著シク憔悴シテ一見重篤患者ヲ思ハセル。發熱 38.8°C 最高トシテ昇降スル弛張型ヲ示

シ脈搏及呼吸數共ニ體溫ニ比例シテ頻數、患者ノ主訴ハ激シキ咳嗽ト右側胸痛、食慾不振、強度ノ疲憊、不眠ナドデアル。

### 喀 痰

前例■某ニ比シ甚ダ僅少デ、1日約50ccガ最大量デアル。其ノ色調ハ、主トシテ黄綠色デ、時々桃褐乃至赤色ノ血液ヲ交ユ。特異ナ腐敗性惡臭ヲ放チ、三層形成ヲ認メル。彈力纖維及肺臟組織片ノ如キハ見當ラヌ。

細菌學的ニハ、連鎖狀球菌、葡萄狀球菌及其他氣道内雜菌ヲ認ムルモ、「スピロヘータ」及結核菌ハ陰性。

### 胸部所見

右肺側胸部ニ於テ僅カニ呼吸音ノ銳變ト吸氣末ニ稀ニ捻髮音ヲ聽取スル以外ニ著變ヲ認メヌ。

### 血液所見

ワッセルマン氏反應陰性、結核補體結合反應陰性、赤沈反應1時間90耗。

### 尿及糞便

著變ヲ認メズ。

### 「レントゲン」所見

右肺側門部陰影稍々増大、上野ヨリ中野ノ邊縁及ソレヨリ約中央部マデ、相當濃厚平等ナル濁窩ヲ認メ、健康部トノ限界ハ不鮮明デアル。此ノ濁窩ト肺門トノ間ハ著明ナ索狀陰影ヲ連結サレテ居ル。濁窩内ニハ限界不鮮明乍ラ空洞ラシキモノ2,3ヲ透見スル。

### 經 過

昭和14年7月4日入院、同年8月15日退院ニ至ルマデ、Squalinノ氣管枝内注入ト靜脈内注射ト交互ニ十數回行ツタ。入院約20日目頃カラ頑強ニ持續シテ弛張熱モ去ツテ無熱トナリ、咳嗽、喀痰モ著明ニ輕減サレ、腐敗性惡臭消失、食慾旺盛、盜汗、惡寒、倦怠感等凡テノ自覺症ハ全ク解消サレタ。退院後、通院療法デ毎週1回Squalinノ靜脈注射ヲ行ツタ。其ノ回数合計17回。爾來、咳嗽喀痰全ク消失、聊カモ病識ヲ感ジナイ。體重モ約2貫5百匁餘増加。「レントゲン」像ハ前記治療前ノ廣汎ナ病竈部位ハ跡

方モ無ク消失シテ餘翳ヲ留メヌ。赤沈反應モ健康值ノ範圍ヲ出ナイ。爾來1ケ年餘、日常ノ作業ニ從事シテ何等ノ故障モ無ク至ツテ健康、再燃ナドハ絶對ニアリ得ナイ完全治癒ヲ遂ゲタ。本例症ノ誘因乃至原因ニ就テモ確然トセヌガ、恐ラク寒冒ノ如キモノカラ氣管枝性ニ壞疽ヲ惹キ起シタモノト推測サレルガ、既ニ發病以來百餘日ヲ經過シ「レントゲン」上ニテモ相當廣汎ナ部位ニ互ツテ確然トシタ病竈ヲ形成シタモノダカラ、決シテ急性的輕症ナ肺壞疽ノ部類ニ屬スルモノデナイコトハ明白デアル。

治驗例 其ノ3 ■■■某男49歳。

診斷 右側上葉肺壞疽。

### 病歴要記

家族史ニハ特記スベキモノナシ。患者ハ幼少時ヨリ胃腸ガ弱カツタガ、別ニコレト云ツタ著患ニ罹タツコトガナイ。

昭和13年11月上旬相當大量ノ喀血ヲ再三繰リ返シタ。尤モ其ノ1ケ月程前カラ右側上部ニ胸痛ヲ感ジ、咳嗽ト共ニ時々腐肉ノ如キ喀痰ヲ出シ異様ナ惡臭ヲ覺エタ。喀血ト同時ニ東京市内某知名病院ニ入院、種々ナ内科的治療ヲ受ケタガ、病狀ハ一進一退撓々シカラズ、時々喀血ヲ繰リ返シ、咳嗽、喀痰量ニモ著變ナク、喀痰ノ惡臭依然トシテ去ラズ、食思、榮養次第ニ衰耗ト兆ヲ示シタ。同病院ニ入院スルコト約7ケ月餘、知人ノ紹介デ轉ジテ余ノ病院ニ入院サレタ。

### 所見要記

#### 一般狀態

榮養狀態ハ前2例ニ比シテ左程惡クナイ。發熱モ最高37.6°C程度デ、脈搏數ハ體溫ニ比例シテ多少頻數ダガ呼吸數ハ平常デアル。

自覺症トシテハ、右胸痛、咳嗽、惡臭ヲ放ツ喀痰、倦怠、疲勞感ナドガ主ナモノデ、惡寒モ盜汗モナイ。

#### 喀 痰

量ハ左程多クナイ。1日量50cc前後デ、色彩ハ黄綠乃至腐肉様デ、時々血塊ヲ交ユ、鼻ヲ刺ス

ガ如キ惡臭ヲ放チ、獨特ナ三層形成ヲ認メル。検査上、彈力纖維及肺組織片ヲ稀ニ認メ、細菌學的ニハ、葡萄狀球菌、紡錘狀菌、其他氣道内雜菌ヲ認ムルモ、結核菌及「スピロヘータ」ハ陰性。

#### 血液所見

ワッセルマン氏反應及結核補體結合反應共ニ陰性。赤沈反應 1 時間 63 耗。

#### 尿及糞便

共ニ異狀ナシ。

#### 胸部理學的所見

右側前上部打診上輕度ノ鼓性濁音ヲ示シ、聊カ抵抗感強ク、呼吸音微弱、右側後方上部鼓性短縮音、呼吸音稍々微弱ノ外著變ナシ。

#### 「レントゲン」像

右側鎖骨下ヨリ殆ト上葉全般ニ互ツテ「クルブ」性肺炎ノ或ル時期ニ酷似セルガ如キ平等濃厚ナ瀾濁竈ヲ認メ、肺尖部ハ陰影遙カニ淡イ。鎖骨下ニ相當大ナル空洞形成ガアル。兩側共ニ肺門部陰影稍々増大シ、肺紋理著明。

#### 經過

昭和 14 年 7 月 12 日入院、同年 8 月 19 日退院ニ至ルマデ、Squalin ヲ氣管枝内注入、肺臟實質内注射及靜脈注射ヲ交互ニ合セテ 17 回行ツタ。入院 1 ヶ月目頃カラ無熱トナリ、咳嗽、喀痰量モ著シク減少、食慾旺盛、胸痛去リ一般狀態モ頗ル好調デアツタガ家庭ノ都合上退院。爾來、通院療法ニ依ツテ毎週 1 回 Squalin ノ靜脈注射ヲ行ツテ現在ニ及ンデ居ル。

目下ノ狀態ハ、榮養良ク、體重モ約 1 貫 5 百匁餘増加、咳嗽、喀痰殆ト消失、自覺症狀更ニ無ク、既ニ 2、3 ヶ月前カラ日常ノ勞務ニ從事シツ、アルガ、何等ノ支障、痛痒ヲ感ジナイ。

「レントゲン」像ハ、治療前ノ濃厚ナ右上葉ノ瀾濁竈殆ト消失シテ、唯僅カニ肺門上部ヨリ鎖骨下モーレンハイム氏窩ニ向フ索狀陰影ト該部ニ殘ル極ク淡イ平等ナ陰影ノ痕跡ヲ止ムルニ過ギヌ。

赤沈反應 1 時間 10 耗。

本患者モ發病後既ニ 9 ヶ月餘ヲ經過シテ居ツ

テ、陳舊性的ナ上ニ病竈モ相當廣汎デ、數ヶ月間、様々ナ他ノ内科的治療ニ拮抗シテ頑トシテ好轉シナカッタモノダカラ、決シテ輕々シイ肺壞疽デナイコトガ首肯出來ルガ、Squalin 治療ニ依ツテ、現在デハ完全治癒ト云ツテヨイ狀態ヲ示スニ到ツタ。

本患者ノ壞疽ノ成因乃至誘因モ恐ラク前 2 例ト同様ダト惟フ。

#### 肺壞疽ノ Squalin 治療ノ檢討

由來、肺壞疽ニ對シテハ、「テルペン」油ノ吸入、飲用乃至注射ナドガ試ミラレタガ、飲用ハ腎臟ヲ刺戟シテ腎炎ヲ惹起スル悞レガアリ、注射ハ強度ノ硬結、疼痛ヲ招ク等ノ弊害ガアルノミナラズ、其ノ治效ニ至ツテハ、大シタ期待ハ出來ナイ。尤モ、「テルペン」油ニハ惡臭ヲ或ル程度マデ輕減スルトカ分泌ヲ抑制スルト云ツタ作用ハ多少トモ認メラレルコトハ事實デアル。

「テルペン」油ガ肺壞疽ニ對シテ多少トモ有利ニ作用スル因據ハ、恐ラク該油中ニ含マレル豐富ナ酸素乃至「オゾン」ダト惟ハレル。

肺壞疽ノ病原體ニ就テハ、今尙一般的ニ認メラレタ定説ヲ缺グガ、嫌氣性細菌説ガ最モ有力視サレテ居ル。果シテ病原體ガ嫌氣性細菌體トスレバ、之ニ對シテ酸素ヲ充分ニ供給スルコトハ、取りモ直サズ、對病原的療法ト看做シテヨイ。

Squalin ハ化學上 Dihydrotriterpene ニ相當スルモノデ、簡言スレバ、動物性「テルペン」ト稱シテヨイ。「テルペン」油類ガ、植物界ニ於テ殺菌、殺菌的ニ作用スルコトハ周知ノ事實デアルガ、是ト對立ス可キ Squalin ガ動物界ニアツテ同様ノ作用ヲ惹起シ得ルコトハ、凡ソ常識的ニモ考ヘ得ラレルコトデ何等不思議トスルニ足ラス。

Squalin ガ、肺壞疽ニ對シテ奏效スル作用機轉ハ、刺戟療法乃至變調療法ト云ツタ間接的ナ Nosotropic ノモノデナク、主トシテ、直接病因、病原的ダト認メラル。其ノ機轉ニ就テハ之ヲ明確ニ實驗的ニ立證出來ヌガ、恐ラク、

Squalin ガ肺壞疽ノ病竈乃至病原體ト著明ナ親和性ガアリ、此處ニ集中サレタ、Squalin ガ、其ノ保有スル特長デアル強甚ナ還元力ニ依ツテ多量ノ酸素ヲ攝取シテ病竈部位ニ之ヲ集積セシムル爲カ、或ハ更ニ6個ノ不飽和炭素核ニ攝取結合シテ酸素ヲ活性状態トシテ病竈乃至病原體ニ供給スル一種ノ觸媒ノ作用ヲ營ム爲ニ因ルモノトモ推測サレル。

Squalin ガ結核病原體ニ作用スルコトモ直接的ダガ、此ノ場合ニハ、Squalin ノ有スル強力ナ還元能其ノモノガ直接生體內ニ寄生スル結核菌ノ生存力ニ脅威ヲ齎ラスガ、肺壞疽ニ對スル機轉ハ、聊カ結核ニ對スルソレトハ一見相異スルヤウデアルガ、根本ニ於テハ、Squalin ノ有スル還元能ト細菌親和性ニ基クコトニ於テ同一ト認メテヨカラウ。其ノ證據ノ一ツトシテ、實際臨牀上ノ永イ經驗カラ觀テ、結核ニ奏效優秀ナモノナラバ、同時ニ肺壞疽ニモ效果ガ優秀デ、反對ニ、結核性疾患ニ效力ノ乏シイ活性ニ缺ゲタ Squalin ナラバ、同時ニ肺壞疽ニ對シテモ同様ナ結果ガ認めラレルコトニ依ツテモ明白デアル。

次ニ余ハ Squalin ニ依ツテ治療シタ肺壞疽患者ハ、既ニ先年發表シタ慢性肺結核ニ合併シタモノ3例ト、今回報告スル3例トヲ合セテ6例ダガ、悉ク治癒シテ再燃シタモノガナイ。從ツテ余ノ實驗シタ範圍デハ、其ノ奏效治癒率100%ダガ、周知ノ通り、肺壞疽ニハ様々ナ病狀ノモノガ含まレル。病勢ノ急、亞急及慢性ノ相異ニ依ツテモ治療劑乃至治療方法ノ奏效程度ニ差異ガ生ジ得ルデアラウ。又病竈ノ廣狹、病原ノ性質、病竈ノ限局性デアルカ血行性多發性デアルカ、病因ノ相異、合併症ノ有無及其ノ性質等ニ依ツテモ亦同様ニ治法ノ奏效率ニ影響スルコトハ勿論デアルカラ、著者ハ斯カル少數ノ實驗ヲ以テ、如何ナル肺壞疽患者ニ對シテモ治效ガ100%ダトハ斷言セヌガ、尠クトモ、著者ノ記載シタ實驗例ノヤウナ肺壞疽患者ナラバ Squalin ノ奏效適確ト認メテヨイ。本著ニ記載サレタ第1及3

例ハ何レモ種々ナ肺壞疽ニ對スル内科的治療ガ無效デアツテ、而カモ其ノ病期ハ相當陳舊且ツ廣汎ナ病竈ヲ有スルモノデ、ドチラカト云ヘバ、重症ニ屬スルモノト認ム可キモノヲ完全ニ治癒セシメ得タノデアルカラ、從來、肺壞疽ニ施サレタ各種ノ内科的治療法トノ優劣ハ臆ゲナガラモ推測出來ルト思フ。今後、各方面デ、多數ニ實驗ガ行ハレタナラバ、肺壞疽ノ内科的療法トシテ一新領域ガ開拓サレルコトト信ズル。

次ニ、本著中、Squalin 靜脈注射トアルハ、毎回0.2cc、氣管枝内注入ハ3.0cc、肺臟實質内ハ0.5—1.0ccヲ使用シタ。

Squalin 使用方法ト效果トノ關係ニ就テ觀ルト、最モ效果ノ鈍イノガ飲用デ、次デ吸入、皮下乃至筋肉内注射、靜脈注射ノ順デ、最モ效果のト思ハル、ハ、肺臟實質内注射デアルガ、此ノ使用方法ハ、肺臟肋膜ヲ損傷シテ腐敗性膿胸ヲ惹キ起サシムル惧レガ萬一ニモ無イト云ヘヌガ、著者ハ相當多數ニ行ツタガ一度モ斯カル偶發症ニ遭遇シタコトガナイ。斯ウシタ偶發症ヲ懸念スルハ、寧ロ杞憂ニ類シタコトデナカラウカ。又、假令斯カル偶發症ガアツタトシテモ、Squalin ヲ肋膜腔内ニ注入スルコトニ依ツテ案外容易ニ之ヲ治癒セシメ得ルノデハナイカト推測シテ居ルガ、經驗ガナイカラ斷言ハ出來ナイ。氣管枝内注入ハ、「リビオドール」ノ注入ト同様ニ行フノダガ、充分巧妙ニ Squalin ガ病竈氣管枝ニ傳達出來レバ至極效果デアルガ、遺憾ナガラ、本法ヲ行フニハ、技術ノ功拙、出來不出來ノ場合ガ生ジ易クテ一概ニ其ノ成績ヲ論議出來難イ。簡單デ且ツ效果モ良好ト思ハル、方法ハ、靜脈道注射ダガ、Squalin ハ油脂類ニ屬スルモノダカラ、大量ヲ一度ニ急速ニ靜脈道カラ注射スルコトハ、油脂性栓塞ノ危險ヲ發生スル惧レガ多分ニアル。1回量ドノ程度マデ危險ガナイカト云ヘバ、家兎ニ就テ多數ニ行ツタ實驗カラ觀テ、家兎ノ體重「プロキロ」ニ對シテ Squalin 0.1cc以下ナラバ未ダ1度モ油脂性栓塞ナドニ遭遇シタコトガナイ。此ノ比例デ行クト、成人

ニ對シテハ、相當大量ヲ靜脈注射トシテ危險ガナイコト、ナル。著者ハ從來人體ニ對シテハ、1回量0.4cc以上ヲ試ミタコトガナイ。此ノ量以下ナラバ、無數ニ行ツタガ、嘗テ一度モ栓塞ニ類似シタ危險ヲ惹キ起シタコトガナイ。靜脈注射トシテ危險ノナイ範圍デ出來ルダケ大量ヲ一度ニ注射スルコトガ治效ガ迅速デアルカ或ハ又、少量宛頻回ニ行フガ有利デアルカ、如何ナル量、方法ヲ選ブガ最モ治癒期間ヲ短縮シ得ラル、良法デアルカナドニ就テハ、今後、肺壞疽患者ヲ多數ニ治療スル特殊ナ病院デ實驗サレテ解決セラルル問題デアル。

治療法ノ主眼點ノ第1要素ハ治病的效果デアルガ、同様ニ效果的ノ場合ハ、更ニ其ノ治療期間ガ重要ナ優劣ヲ分ツ問題トナル。治效ガ迅速デ適確ナモノガ理想的デアル。又治效ヲ現ス場合

## 結

- 1) 合併症ノナイ單純ナ相當重症ノ肺壞疽患者3例ニ Squalin 療法ヲ試ミタガ、何レモ臨牀的及「レントゲン」像等カラ觀テ、完全乃至殆ド完全ニ治癒シタ。
- 2) 内2例ハ、Squalin 治療前、様々ナ肺壞疽ニ對スル他ノ内科的治療ヲ施サレタノデアルガ無効ニ終ツタモノデアル。
- 3) 3例共ニ何レモ、喀痰内ニ結核菌及「スピロヘータ」ワッセルマン氏反應ハ共ニ陰性ダガ、結核補體結合反應ハ1例ニ於テノミ弱陽性、他ノ2例ハ陰性ヲ示シタ。弱陽性ノ1例ハ、肺壞疽ノ1年前ニ結核性肋膜炎ニ罹患シタコトガア

## 文

- 1) 鴻上及共同作業、結核、第15卷、第5號。

モアルガ、反面ニ、危險ナ偶發症ヲ招來セシムル惧レアルモノハ、之ヲ措イテ他ニ良法ノ非ザル限り敢行スベキデナイ。此ノ意味デ、内科的ニ、更ニ危險ヲ隨伴シナイ良法ガアレバ、觀血的外科的療法ヤ其他忌ム可キ副作用ヲ起ス可能性アルモノハ、萬策盡キタ際ニ望ンデ最後ニ行フガ至當ダト思フ。近時、肺壞疽ニ對シテ、外科的療法ヲ推獎サルル者ガ多イガ、斯カル觀血的外科療法ト Squalin 療法トノ優劣、長短ニ就テ今茲ニ喋々スルコトヲ控ヘルガ、尠クトモ、外科的療法デ治效ヲ示ス程度ノ肺壞疽ナラバ、Squalin 療法ニ依ツテモ亦容易ニ治效ヲ奏スルモノト確信シテ居ル。ノミナラズ、Squalin 療法ニ於テハ、簡單ナ内科的療法デ、危險ナ副作用ナドガ皆無デアルコトモ、一ツノ優レタ點ダト考ヘル。

## 論

- ルカラ、恐ラク、何レカニ潛伏活動性ノ結核病竈ヲ尙ホ幾分残留シ居ルモノト推セラル。
- 4) 肺壞疽ニ對スル Squalin 療法ハ、簡單デ且ツ危険性ヲ全ク認メヌ治效優秀ナ内科的方法デアル。
- 5) 肺壞疽ニ於ケル Squalin ノ作用機轉ハ、結核性疾患ニ於ケルト同様ニ、間接的デハナクテ、直接病因或ハ病原的ト思惟スル。
- 6) 肺壞疽乃至其他ノ壞疽性疾患ニ對シテ效力優秀ナ Squalin ナラバ、ソレハ又同時ニ、結核性疾患ニ對シテモ優秀ナ活性ヲ現スモノト斷定シテヨイ。

## 獻

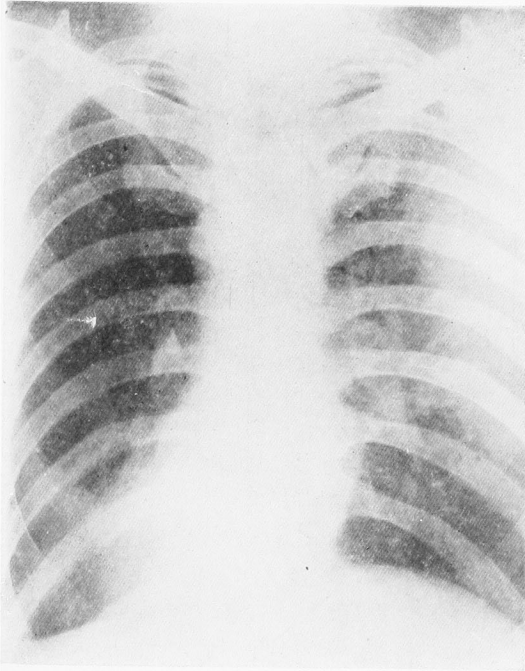
鴻上論文附圖(1)



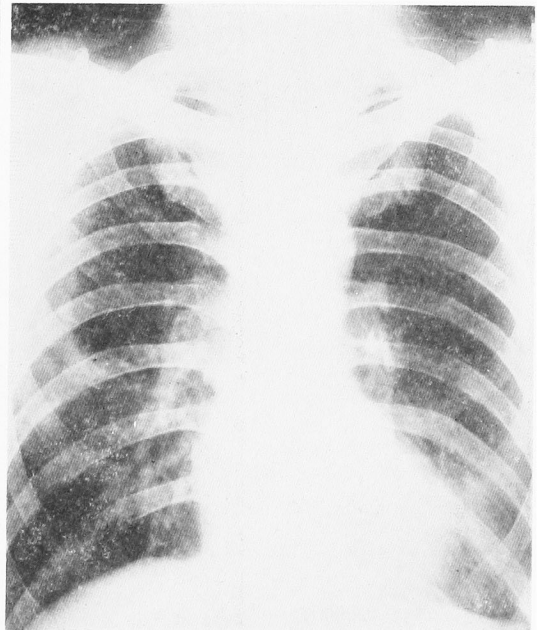
(治驗例其ノ1) ■某男治療前



(治驗例其ノ1) ■某男治療後



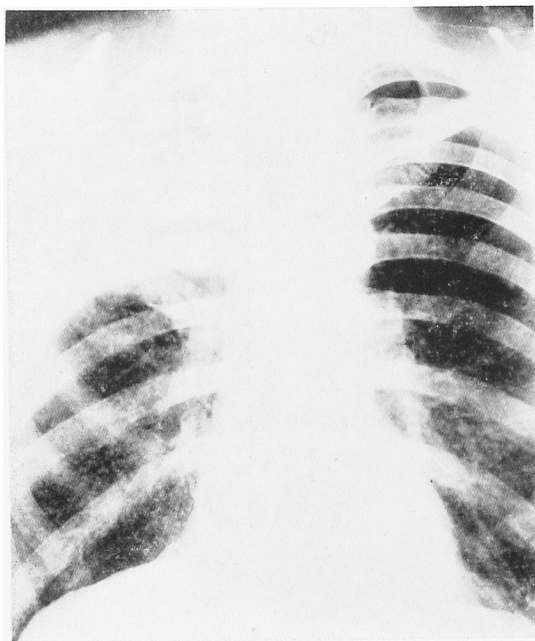
(治驗例其ノ2) ■某男治療前



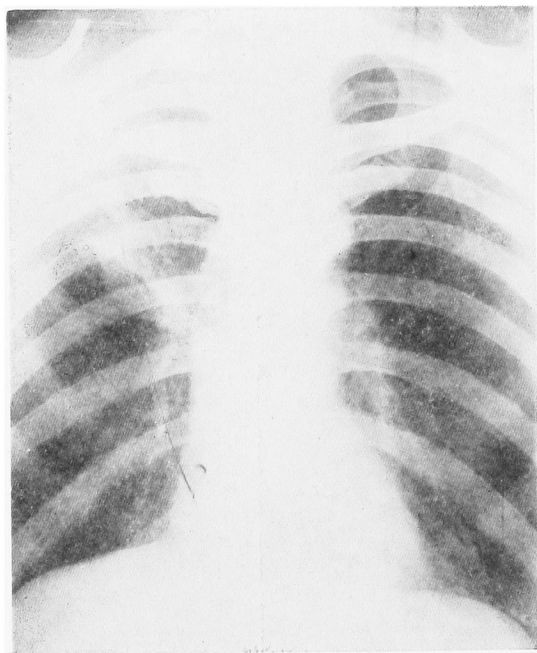
(治驗例其ノ2) ■某男治療後



鴻上論文附圖(2)



(治驗例其ノ3) ■ 某男治療前



(治驗例其ノ3) ■ 某男治療後